

校長だより

～なかまとともにのびよう～



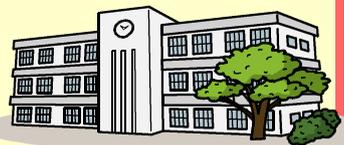
天美小学校 HP

令和5年3月号

校長 高橋 義浩

1年間を振り返って

今年度も早いもので、残すところあと1ヶ月となりました。今年度も、新型コロナウイルスの影響が強くある中での出発でした。様々な学校行事等に制限がかかり、保護者や地域の皆様にも何かとご不便・ご迷惑をおかけいたしました。この一年、本校の教育活動にご理解ご協力いただき、本当にありがとうございました。職員一同、お礼を申し上げますとともに、来年度も引き続きご支援ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。



子どものSNS利用をどう考えるか(後編)

最近あったトラブルで、学生時代の投稿にファンがつき、勤務先までファンが訪ねてくるストーカー事案があった。彼女は学生時代に何年も自撮りを投稿し、日々の暮らしをネットに公開している普通の女性だが、その投稿を何年も楽しみに見続け、「いいね」を送り続けたファンが、ある日突然攻撃に変わり、職場に誹謗中傷の攻撃をし始めた。攻撃に転じた理由は、彼女の投稿内容にあった。採用された職場で、男性社員との楽しそうな画像の投稿だった。何年も追い続けるファンは、自分の手に入らない存在になってしまうと攻撃側になってしまうことがある。「彼が出来た!」の投稿から、彼が狙われる事もある。

SNSは実質普及して10年も経っていない。当初は一部の人々が情報交換に利用してきたが、「インスタ映え」という言葉が流行るように、誰でもスマホで日々の行動をリアルタイムに投稿する今となっては、見ている側もいろいろな趣味趣向を持った人たちが含まれているのだ。

楽しかったSNSへの情報発信が、思いもよらぬ方向に進みだした。楽しいSNS時代は終わったように思う。20年間ストーカー行為をしてきた人物が逮捕されたが、本当は珍しい事件ではないのかも知れない。

(NIT 情報技術推進ネットワーク株式会社 篠原嘉一氏による、公益財団法人「関西消費者協会」のHP～「ネット漂流」のバックナンバーより)

ネット・スマホの光と影 ～子どもたちをネット被害から守るために～

【2月17日(金)に「地域教育協議会」主催の研修会の内容(一部抜粋)】

■オンラインゲームや SNS アプリには必ず「利用規約」がある。例えば、「ライン」の利用は *12歳以上 ■インターネット上に何かをあげる(UPする)ということは、「ずっと残る」= 「(不特定多数の人々に)知られる」ということであり、この先、高校生になっても社会人になっても残る。そして、自分の子どもにも孫にも“知られる”ということ ■何気ない書き込みが、場合によっては後々大きな問題を引き起こす。実際の例として、「LINE」上での書き込みによって、保護者が賠償責任を負った例がある ■情報モラルでは、「できること」と「していいこと」は違う

